

【ロジックモデル】浄化槽システムの脱炭素化推進事業（再循環浄化槽推進室）

令和4年9月7日時点

課題／目的

- ・2050年カーボンニュートラル達成に向けては、浄化槽分野においても脱炭素化の推進が求められている。
- ・現状、既設の中大型の合併処理浄化槽においてはエネルギー効率の低いものが多く残存しており、対策が急務となっている。
- ・このため、既設の中大型浄化槽について、最新型の高効率機器への改修及び先進的省エネ型浄化槽への交換を促進するとともに、再エネ設備を活用した浄化槽システムの導入を推進することにより、大幅なCO2削減を図る。

- ・中大型合併処理浄化槽の全出荷基数1,171基(R2実績)のうち先進的省エネ型浄化槽223基(全体の19%)
- ※R3年度次世代浄化槽システムに関する調査検討業務報告書参照

インパクト

- ・省エネ型浄化槽や再エネを活用した浄化槽システム等の導入普及により、浄化槽分野における大幅なCO2削減を実現。
- ・今後の人口減少社会において、効率的な分散型污水处理インフラである浄化槽整備を通じて脱炭素社会の構築に貢献。

- ・再エネを活用した浄化槽システム等の導入普及によるCO2削減量

インプット

- 【予算】 令和5年度：1,800百万円（要求額）
- 【実施期間】 R4年度～R8年度
- 【補助率】 対象事業経費の1/2
- 【間接補助事業者】 公募により決定
- 【補助先】 民間事業者、地方公共団体等

- 1件当たりのコスト
(前身事業のR2年度実績：
事業費／整備数)
- 機器改修：2,500千円
- 交換：22,500千円

アクティビティ

- ①既設の中大型合併処理浄化槽に係る高効率機器への改修
 - ・最新型の高効率機器（高効率ブロワ等）への改修とともにブロワ稼働時間を効率的に削減可能なインバータ及びタイマー等を設置
 - ・改修によって当該機器のCO2排出量を20%以上削減（③の再エネ設備導入によるCO2排出量の削減を含む）
- ②既設の中大型合併処理浄化槽から先進的省エネ型浄化槽への交換
 - ・最新の省エネ技術による先進的省エネ型浄化槽への交換
 - ・交換によって既設浄化槽のCO2排出量を46%以上削減（③の再エネ設備導入によるCO2排出量の削減を含む）※規模見直し等により高い削減率を達成するものを優先採択
- ③中大型合併処理浄化槽への再エネ設備の導入
 - ・上記①又は②と併せて行う再エネ設備（太陽光発電、蓄電池等）の導入

- ・本補助事業により高効率機器への改修や交換を促進
〔事業例〕導入補助（補助率1/2）によって高効率機器への改修による投資回収年数が27.6年→13.8年に縮減
- ・前身事業による普及展開に加えCN宣言や温対計画に基づく46%削減目標により浄化槽業界全体で省CO2化への意識が高まっており、本事業による積極的な支援が必要
- ※(一社)全国浄化槽団体連合会の政府要望でも浄化槽の脱炭素化への財政支援が明記

アウトプット

- ・既設の中大型浄化槽について、高効率機器（高効率ブロワ等）への改修及び先進的省エネ型浄化槽への交換を実施
- ・上記の改修及び交換と併せて再エネ設備を導入
- ・R4～R8年度の5年間で、対策が必要となる既設の中大型浄化槽約3万基のうち約3.5千基（700基／年）の導入を見込む

- 前身事業実績（H29～R3）
H29:176件、H30:433件、
R1:503件、R2:471件、
R3:568件

アウトカム

- 短期：省エネ型浄化槽への更新や再エネの導入を推進
- 中期：再エネを活用した浄化槽システムの導入推進及び省エネ型浄化槽の性能の更なる向上によるCO2の大幅削減
- 長期：再エネを活用した浄化槽システムの更なる導入拡大と電力分野のCO2削減をあわせて浄化槽分野の脱炭素化を図る。

- ・温対計画に定める削減目標についてフォローアップ
- ・温対計画に定める削減見込量：12.3万t-CO2（2030年度目標）